

- 問1 過去に発生した地震、津波、洪水などの災害情報を後世に伝えるために設置された石碑であり、2019年には国土地理院によって、石碑を模した形の中に縦線が入った図形の地図記号が新たに制定されたものを何と呼ぶか。 (2023年 鳥取県公立入試 類似)
1. 自然災害伝承碑 2. 戦災復興記念碑 3. 万葉歌碑 4. 忠魂碑
- 問2 山梨県の甲府盆地周辺などに見られる扇状地の斜面地は、古くからブドウやモモなどの果樹園として利用されてきました。このように扇状地が果樹栽培に適している土地の性質を説明したものと、最も適切なものはどれですか。 (2024年 徳島県公立入試 類似)
1. 砂や礫が堆積してできているため、水はけが非常に良い。 2. 標高が高く常に霧が発生するため、湿度が非常に高い。 3. 火山灰が降り積もってできた土地であり、酸性が非常に強い。 4. 細かい泥が堆積してできているため、水持ちが非常に良い。
- 問3 冬の季節、日本の日本海側で山沿いを中心に降雪量が多くなるメカニズムについて、海流の性質と季節風の関係を説明したものと最も適切なものはどれですか。 (2015年 岐阜県公立入試 類似)
1. 太平洋側から吹く湿った季節風が、暖流である日本海流の影響で勢力を強め、日本海側の山地を越える際に雪を降らせるため。 2. 北極方面から南下する寒流の千島海流が日本海の水温を下げ、海上で発生した霧が季節風に乗って陸地に運ばれるため。 3. 大陸からの冷たく乾燥した季節風が、暖流である対馬海流の上を渡る際に水蒸気を補給され、湿った空気となって山地で上昇するため。 4. 大陸からの冷たい季節風が、寒流であるリマン海流によって冷やされて密度を増し、日本海側の平野部で大雪をもたらすため。
- 問4 愛媛県八幡浜市のように、海に面した狭い平地と背後の急峻な山地が隣接する地域において、地形図を活用して地震や津波に備えた避難計画を立てる際、最も重視すべき点として適切なものはどれですか。 (2022年 鳥取県公立入試 類似)
1. 移動のしやすさを優先し、海岸沿いの標高が低い埋立地を避難先を選ぶこと 2. 等高線の数値を読み取り、浸水の恐れがない標高の高い高台を避難先を選ぶこと 3. 大規模な避難が可能となるよう、山地を避けて面積の広い平野部のみを候補とすること 4. 等高線の間隔が最も広い、海沿いの平坦な場所を避難先を選ぶこと
- 問5 河口付近に形成される三角州は、その土地の性質から古くから様々な用途に利用されてきました。三角州の一般的な土地利用や環境について述べた文として正しいものはどれですか。 (2021年 徳島県公立入試 類似)
1. 標高が低く水が得やすいため、古くから水田として利用され、現在では大都市の一部として住宅地や工業地帯にもなっている。 2. 地表面が硬い岩盤で覆われているため、大規模な建築物の建設に適しており、高層ビル群が立ち並んでいる。 3. 標高が高く洪水被害を受けにくいため、古くから城下町や官公庁が集まる中心市街地として発展してきた。 4. 砂礫が多くて水はけが非常に良いため、古くから果樹園や畑として集中的に利用されてきた。
- 問6 日本の冬の季節風と、それに応じた人々の暮らしについて述べた文として、正しいものはどれですか。 (2018年 岡山県公立入試 類似)
1. 冬は大陸から乾燥した北西の季節風が吹くため、住居の北西側に防風林や生垣を設けることがある。 2. 冬は大陸から湿った北西の季節風が吹くため、家屋の風通しを良くして湿気を逃がす工夫をする。 3. 冬は赤道方面から乾燥した南東の季節風が吹くため、住居の周辺に水をまいて湿度を保つ工夫をする。 4. 冬は太平洋から湿った南東の季節風が吹くため、住居の南東側に高い石垣を設けることがある。
- 問7 自然災害による被害を最小限に抑えるための防災・減災の取り組みにおいて、地震や水害などの被害が予想される区域や、避難場所、避難経路などの情報を地図上にまとめたものを何というか。 (2026年 富山県公立入試 類似)
1. 等高線図 2. ハザードマップ 3. ロードマップ 4. 土地利用図
- 問8 寒流である千島海流（親潮）が日本の産業や自然環境に与える影響について述べた文として、最も適切なものを選びなさい。 (2014年 愛媛県公立入試 類似)
1. プラントンを豊富に含んでおり、南からの日本海流と重なる海域は好漁場となる。 2. 対馬海峡から日本海に入り、東北地方の日本海側に多雨・多湿な気候をもたらす。 3. 海水の温度が非常に高いため、日本の南岸に沿って流れることで冬の気候を温暖にする。 4. 日本海側を北上する海流であり、冬に水分を供給して山間部に大雪をもたらす。
- 問9 九州の北側から日本海に入り、日本列島に沿って北上する暖流である対馬海流が、日本の自然環境に与える影響を説明したものと最も適切な記述を選択してください。 (2019年 岩手県公立入試 類似)
1. 夏にこの暖流から発生する冷たく湿った風が山を越えて吹き下ろすことで、東北地方の太平洋側に「やませ」と呼ばれる冷害をもたらす。 2. この暖流と北から南下してくるリマン海流がぶつかる海域は「潮目」と呼ばれ、プランクトンが豊富な世界最大の暖流として機能している。 3. 冬に吹く北西の季節風がこの暖流の上を通る際、水蒸気を大量に蓄えるため、日本海側の地域に大雪をもたらす原因となる。 4. この暖流は流れが非常に速いため、江戸時代の西廻り航路において、北海道から大阪へ向かう北前船の航行を妨げる最大の要因となった。
- 問10 渋谷駅の東口地下など、日本の都市部では大規模な「雨水貯留施設」が建設されています。この施設が果たす役割として正しい説明はどれですか。 (2021年 群馬県公立入試 類似)
1. 貯めた雨水を地下深くに注入することで、都市部で深刻化している地盤沈下をくい止める。 2. 地下鉄の運行によって発生する熱を冷却するために、冷たい雨水を地下トンネル内に循環させる。 3. 大雨の際に雨水を一時的に貯め、下水道や河川へ水が一気に流れ込むのを抑えて浸水被害を防ぐ。 4. 蓄えた雨水を高度に浄水処理し、災害時に飲料水が不足した際の供給源として活用する。
- 問11 日本の海岸線の特徴を説明した資料において、山地が海に面し、複雑な凹凸を持つ海岸地形の形成理由を説明したものと、正しい記述を選択してください。 (2020年 高知県公立入試 類似)
1. 沿岸流によって運ばれた砂が湾の入り口をふさぐように長くなり、細長い地形を作った。 2. 浅い海を堤防で囲い込み、ポンプで海水を排水することで陸地へと造り替えた。 3. 河川から運ばれてきた大量の土砂が河口付近に堆積し、平坦な土地が海へ突き出した。 4. 地殻変動による土地の沈降や海面上昇によって、山地の谷の部分に海水が入り込んだ。
- 問12 長崎県の五島列島付近から、平戸や佐世保などの沿岸を通り、対馬海峡を抜けて日本海へと北上していく海流があります。この海流の名称と性質の組み合わせとして、正しいものはどれですか。 (2017年 京都府公立入試 類似)
1. リマン海流（寒流） 2. 日本海流（暖流） 3. 対馬海流（寒流） 4. 対馬海流（暖流）
- 問13 東日本の太平洋沖では、北から流れてくる親潮と、南から流れてくる黒潮がぶつかり合っています。この海域が「好漁場」となっている理由を説明した文として、最も適切なものを選択してください。 (2018年 千葉県公立入試 類似)
1. 深層水が湧き上がることで海水温が一定に保たれ、熱帯性の珍しい魚が常に生息しているため。 2. リアス海岸の影響で波が静かになり、遠洋漁業から帰った船が魚を運び込みやすいため。 3. 潮目（潮境）と呼ばれ、寒流と暖流が混ざり合うことでプランクトンが発生し、多くの魚が集まるため。 4. 大陸棚が広がり、太陽の光が海底まで届くことで、大規模な養殖業が営まれているため。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 自然災害伝承碑	過去の災害の教訓を風化させず、地域住民の防災意識を高めることを目的として設置されている。地形図にその位置を表示することで、自分たちが住んでいる場所でかつてどのような被害があったのかを容易に確認できるようになり、適切な避難行動につなげる狙いがある。
問2	答え 1 砂や礫が堆積してできているため、水はけが非常に良い。	扇状地は河川が運んできた粒の大きな砂や礫で構成されています。そのため、雨水が地下に浸透しやすく「水はけが良い」という特徴があります。稲作（水田）には多くの水が必要なため不向きですが、乾燥を好む果樹の栽培には非常に適した条件となっています。
問3	答え 3 大陸からの冷たく乾燥した季節風が、暖流である対馬海流の上を渡る際に水蒸気を補給され、湿った空気となって山地で上昇するため。	日本海には、低緯度から暖かい水を運ぶ対馬海流（暖流）が流れています。冬にシベリア大陸から吹き出す冷たく乾燥した北西季節風が、この温かい対馬海流の上を通過するとき、海面から蒸発する水蒸気を大量に取り込みます。水蒸気をたっぷり含んだ空気は、日本の中心部を走る山脈を越えようとして上昇し、断熱冷却によって雲が発達し、日本海側に雪を降らせます。
問4	答え 2 等高線の数値を読み取り、浸水の恐れがない標高の高い高台を避難先に選ぶこと	八幡浜市のような地形では、津波が発生した際に海沿いの平野部が浸水する危険性が非常に高いです。地形図に描かれた等高線からその地点の標高を正確に把握し、浸水域よりも十分に高い山の中腹や高台にある寺院・学校などを避難場所として選定することが、命を守るための適切な判断となります。
問5	答え 1 標高が低く水が得やすいため、古くから水田として利用され、現在では大都市の一部として住宅地や工業地帯にもなっている。	三角州は砂や泥が堆積してできた標高の低い平坦地であるため、水を引きやすく稲作に適した環境です。一方で、地盤が軟弱な場所が多く、地震の際の液状化現象や、大雨による洪水、高潮などの浸水被害を受けやすいという防災上の課題も抱えています。
問6	答え 1 冬は大陸から乾燥した北西の季節風が吹くため、住居の北西側に防風林や生垣を設けることがある。	日本の冬の気候を特徴づける北西の季節風は、シベリア大陸から吹き出します。この風は太平洋側の地域において、寒冷で乾燥した強風となるため、家屋の北西側に生垣や防風林を設置することで、寒さを和らげたり、砂埃や火災の延焼を防いだりする役割を果たしてきました。選択肢にある「南東の季節風」は夏の気候の特徴であり、冬の状況とは異なります。
問7	答え 2 ハザードマップ	大規模な自然災害に備え、自治体などは被害の大きさを予測し、住民が安全に避難できるような情報を公開しています。この地図を活用することで、自分たちが住む場所のリスクを事前に把握し、適切な避難行動につなげることが可能になります。
問8	答え 1 プランクトンを豊富に含んでおり、南からの日本海流と重なる海域は好漁場となる。	千島海流は栄養塩に富み、プランクトンが大量に発生するため、魚の餌が豊富な海流です。この寒流が、南から北上してくる暖流の日本海流（黒潮）とぶつかる海域は「潮目（潮境）」と呼ばれます。潮目では暖流系と寒流系の両方の魚が獲れるほか、プランクトンも多いため、世界的な好漁場となっています。
問9	答え 3 冬に吹く北西の季節風がこの暖流の上を通る際、水蒸気を大量に蓄えるため、日本海側の地域に大雪をもたらす原因となる。	対馬海流は暖流であるため、冷たい大陸からの季節風がその上を通過する際に大量の水蒸気を供給します。この湿った空気が日本の背骨にあたる山脈にぶつかって上昇することで雲が発達し、冬の日本海側に世界でも有数の多雪地帯を作るという因果関係があります。なお、「やませ」は親潮などの寒流の影響を強く受ける現象です。
問10	答え 3 大雨の際に雨水を一時的に貯め、下水道や河川へ水が一気に流れ込むのを抑えて浸水被害を防ぐ。	雨水貯留施設は、地面が舗装されている都市部において、雨水を一時的にプールのように貯め込む役割を持っています。これにより、下水道の処理能力を超えたり、河川が氾濫したりするリスクを軽減します。渋谷のような谷状の地形では雨水が集まりやすいため、こうした防災施設が都市の安全を守る上で重要になっています。
問11	答え 4 地殻変動による土地の沈降や海面上昇によって、山地の谷の部分に海水が入り込んだ。	リアス海岸のような複雑な海岸線は「沈水」という過程を経て作られます。もともと陸地だった起伏の激しい山地が、土地の沈降や氷河期が終わった後の海面上昇によって海の下に沈むことで、かつての谷筋が深い入り江となります。これに対し、土砂が堆積してできるのは三角州、砂がたまってできるのは砂州、人工的に陸地を作るのは干拓であり、リアス海岸の形成過程とは異なります。
問12	答え 4 対馬海流（暖流）	九州北西部から対馬海峡を経て日本海へ流れ込むこの海流は、黒潮（日本海流）から分かれた暖流です。五島列島などの長崎県周辺を通過し、日本海側の気候や漁業に大きな影響を与えています。対馬海峡の名前を冠しており、低緯度から暖かい水を運ぶ性質を持っています。
問13	答え 3 潮目（潮境）と呼ばれ、寒流と暖流が混ざり合うことでプランクトンが発生し、多くの魚が集まるため。	寒流の親潮と暖流の黒潮がぶつかる境界は「潮目」と呼ばれます。ここでは両方の海流が運んできたプランクトンが豊富に発生し、それを餌とする寒流系・暖流系両方の魚が集まるため、世界的な好漁場となっています。